

## ■ 期末考査に向けて



6月29日(火)から7月1日(木)にかけて、期末考査が実施されます。考査まで1週間ほどになりましたが、少しずつ準備を進めていますか？最近、特に3年生諸君の中で、指定校推薦を利用して大学進学を希望する者が評定平均値について確認しに来るケースが多く見られます。進学・就職を問わず、1年生から3年生の1学期までの成績が志望校や志望企業に送られていくこととなりますので、3年生諸君は特に気を引き締めて今回の期末考査に臨んでほしいと思います。

1、2年生の諸君も、いずれ評定平均値が気になって仕方がないという時期が来ます。そのときになって、「あのとき、しっかりと取り組んでいれば良かった」などと後悔しなくて済むよう、きちんと準備して考査に臨んでください。

## ■ 3年生の進路ガイダンスについて



6月8日(火)から6月15日(火)にかけて、3回に分けて3年生に対する「進路ガイダンス」を聖賢堂で実施しました。主に今後、進路活動を行っていくうえで必要な手続き等についてお話ししました。予定よりも遅くなってしまいましたが、『進路活動の手引き』も配付しました。『進路活動の手引き』には、受験の際に必要なとなる手続きや、入学試験や入社試験で課される面接に向けて、質問内容や面接ノートの作成方法などがまとまっていることをお伝えしましたので、ぜひ参考にして早めに取り掛かるようにしてください。面接ノートを作成したら、実際に多くの先生方と面接の練習をしてもらうようにしましょう。

就職希望者に対しては、遅くとも7月上旬ごろまでに第2回ガイダンスを実施し、求人票の開示日程や見方などについてお知らせしますので、必ず参加するようにしてください。コロナ禍ですので、どこまで例年どおりの実施になるかは分かりませんが、夏休み中に必ず複数の企業の職場見学をさせていただき、よく比較したうえで、志望企業を決定するようにしてほしいと思います。

最後に、進学希望者で日本学生支援機構奨学金を希望する生徒については、6月1日(火)から予約採用の受付をしておりますが、保護者の皆様に書類関係でお手数をお掛けしたケースがありました。申し訳ございません。第2回目での申込み希望者は、6月21日(月)から25日(金)に学校で入力してもらうこととなります(※学年集会等で入力時間についてはお知らせします)。入力後、1週間以内にマイナンバーについて各ご家庭から直接お送りいただかなければなりませんので、お忘れなく。

## ■ 警察官希望者に対する説明会を実施



6月18日(金)の放課後、福島県警察の白岩大將さん等2名が来校して、警察官を志望している3年生の男子3名に対する説明会が行われました。白岩さんは本校の卒業生で、在学中は剣道部に所属していました。3名の希望者は、「先輩」から警察官を志望するうえでの心構えなど、諸々の説明を受け、しっかりと耳を傾けていました。加えて、警察官を志望するうえで必要な書類の作成方法についてアドバイスを受けていました。

## ■ 卒業生の合格体験記



昨年度卒業生の合格体験記は今回が最終回となります。今回は、立教大学に進学した川又南さんです。特進コースだった川又さんは卓球部に所属していましたが、少ない時間でも常に集中して練習に臨んでいた印象があります。残念ながら、目標だった県大会出場はかないませんでした。地区大会等で自分の試合が終わった後は、本校の他の選手の応援をしながら、ギャラリーで教科書や参考書を開いて黙々と学習していました。合格体験記では、本人は多少謙遜しているようですが、普段の学習にもコツコツと取り組み、5校受験して、第1志望の立教大学を含む下記の4校に合格しました。

さらに、昨年3月に卒業して千葉県で浪人生活を送り、北海道大学に進学した阿部駿平さんにも合格体験記を書いていただきました。阿部さんの反省点についても、ぜひ参考にさせていただければと思います。

【合格体験記】 川又 南さん（昨年度3年5組）

立教大学法学部法律学科 明治学院大学法学部法律学科  
専修大学法学部法律学科 神奈川大学法学部法律学科合格

私が志望校を決めたのは、高校3年生の夏でした。周りの友達と比べてもとても遅い方だったと思います。1、2年生の頃は、8時間目の課外と課外後の部活動を終えて下校し、それだけで満足して家ではほとんど勉強していませんでした。最初は模試などもそこまで酷（ひど）い結果ではなく、特に学校以外の勉強はせず、油断していました。その結果、2年生の後半から3年生の夏休み前までの模試の成績はとても悪く、志望校も決めていなかったのもうやく焦（あせ）り始めました。



色々考えた結果、私は受験教科を3科目に絞り、私立文系の大学を目指すことにしました。英語は英検の勉強やセンター（共通テスト）レベルの英単語を暗記、日本史はセンター過去問の7割くらい、国語はセンター過去問の7割以上取ることを目標として7月～10月くらいまで勉強していました。夏休みの模試では成績が上がっていたので、それが自信となり、徐々に大学の赤本等に取り組むことにしました。最後の模試まで、第1志望や第2志望、第3志望の大学の判定はDやEでしたが、判定を気にすることなく勉強し続けました。その結果、第1志望の立教大学だけでなく、併願していた明治学院大学、専修大学、神奈川大学からも合格を頂きました。

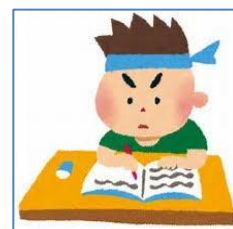
（裏面に続く）

私が合格できたのは、自分に必要なものと必要でないものをきちんと区別していたからだと思います。そして、茅根先生や志賀先生をはじめ、たくさんの先生方のお陰と感謝しています。分からないところがあったら、分かるまで先生方に教わりました。受験勉強を通して学んだこともたくさんあるので、今後の大学生活でも活かしていきたいと思います。

## 【合格体験記】 阿部駿平さん（令和元年度卒業生）

北海道大学総合理系 法政大学デザイン工学部建築学科  
工学院大学建築学部建築学科合格

勉強している時にありがちなことですが、まず何をすればいいか分からないってことはありませんか？ 私も現役時代に何から手を付けていけば良いか分からず、結果、国公立大学に合格することができませんでした。結論から言うと、分からないなら先生に聞けば良い。問題の解き方から勉強法まで聞いて、自分だけで解決しようとしなないことが一番だと思います。そして、とりあえず試してみる。試してみて合えば採用、合わなければ採用しなければいいと思います。多くの先生から帰ってきた答えは「基礎を固める」でした。基礎というのは、自分ではできていると思いがちで、意外と抜けがあるものです。事実、私も多くの穴がありました。では、どうやって基礎を固めるか。学校で配布されているような問題集の基礎問題を瞬間的に解答できるようにする、です。それに加えて、理系科目であれば、自分で公式を導く、定義を書き出すことは非常に効果的だと思います。決まりきったように何となく公式を使うよりも、どの問題に対してどの公式を使うのかを意識して使うと、多少ひねられた問題にも対応できるようになります。



受験期直前は過去問や赤本ばかりになってしまっていますが、問題演習と基礎を並行して進めると無駄が少なくなります。逆に赤本だけ、過去問だけの対策は効果的でないと思います。そして、一度やった過去問を復習する際に、期間を空けてもう一度最初から解き直すのが一番ですが、どうしてもやる気にならない時があると思います。そんな時は、過去の自分の解答を眺めて解法を確認するだけでも十分に効果が得られます。記憶はどんどん薄れていってしまうので、定期的に目を通して思い出すことが大切になります。

受験を一人で乗り切れる人はごく一部の人に限られます。現役の時の私に足りなかったものは、周りの人を頼ることと基礎を固めていなかったこと、受験直前期に基礎に戻ることができなかったことです。私は浪人して良かったと思いますが、浪人しないに越したことはないです。上記の意見も自分に合う合わないがあると思うので、各々取り入れていただければ幸いです。

## ■校歌について



「作詞家の阿久悠（あく・ゆう）」と言われても、みなさんは分からないかもしれませんね。昭和を代表する作詞家の一人で、40年くらい前のアイドル歌手であるピンク・レディーの「UFO」などのヒット曲をはじめ、5000曲以上の詞を世に送り出した人物です（少し古すぎる話で申し訳ありません。筆者も保育園児か小学生の頃でした）。その阿久悠さんは明治大学の卒業生ですが、明治大学に入学した理由は「校歌が素晴らしいから」だったという話を何かで読んだことがあります。

「♪白雲なびく駿河台」で始まる明治大学校歌は、早稲田大学の校歌、先の「合格体験記」を書いてくれた卒業生の阿部駿平さんが進学した、北海道大学の寮歌「都ぞ弥生」とともに「日本三大校歌」の一つに数えられます（※諸説あります）。明治大学校歌は、歌詞はもちろん音楽的にも優れ、明大の在学学生や卒業生でなくてもファンは多いとされます。作曲者は、昨年の11月末まで放送されていたNHKの連続テレビ小説（朝ドラ）『エール』で、故・志村けんさんが演じていた小山田耕三のモデルとなった山田耕筰です。重厚感のある大学校歌ならではのメロディーが特徴と言えます。東京六大学野球や関東大学ラグビーの対抗戦などで聞く機会があると思います（※早稲田大学校歌もファンは多く、明治大学の校歌同様、東京六大学野球や関東大学ラグビー対抗戦などで聞くことができます）。

大学校歌や応援歌は、長年の伝統が感じられる素晴らしい楽曲が多く、東京六大学や東都大学などの野球リーグの応援で神宮球場に入り浸っていた人たちは、メガホン片手に自校の勝利のために声をからしながら応援したことが学生時代の良い思い出になっていたりします。「卒業してから何年経っても、歌詞を忘れることなくフルで歌える」という人も多くいます（※ちなみに、東都大学野球と言えば、小耳にはさんだ話では、昨年度の卒業生で野球部主将だった小松大介さん（東京農業大学）は、1年生ながら試合に出場して活躍しているとのこと）。

さて、本校の校歌は、創設者で初代理事長の田久孝翁先生が作詞されたものです。校章に描かれている「ペンと剣」が歌詞の中でキーワードになっていると言えます。1番から3番まですべての歌詞に登場します。「ペンは剣よりも強し」という、「独立した報道機関の思考・言論・著述・情報の伝達は、直接的な暴力よりも人々に影響がある」という意味の格言がありますが、同時にこの「ペンと剣」については、「ペン」は学業の象徴であり、「剣」は武道、つまるところ、スポーツの象徴と解して、「文武両道」を表している校歌・校章とも言えるかもしれません。みなさんには、ぜひ勉学に部活動に有意義な学校生活を送ってほしいと思っています。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、放送による全校集会が続きました。今年度もこの状況は続き、2年生のみなさんの中にはまだ本校の校歌の歌詞がよく分からないという人も多くいるのではないかと思います。ワクチン接種も少しずつ進んでいるようですから、ひょっとしたら、年内には体育館で全校集会ができるようになるのかもしれませんが、1年生のみなさんもぜひ早く歌えるようになってほしいと思います。文責：清水聖（進路指導主事）